

News Release

2019年6月4日
株式会社日立製作所

日立が東亜石油からガスタービン保守の信頼性向上を目的とした 高温部品管理プラットフォームを受注

Lumada の活用により、点検・保守作業の効率化や運転員の保守能力向上に貢献

株式会社日立製作所(執行役社長兼 CEO:東原 敏昭/以下、日立)は、このたび、東亜石油株式会社(代表取締役社長:濱元 節/以下、東亜石油)から、ガスタービン保守の信頼性向上を目的として、クラウド上で設備の情報を一元管理することにより、点検・保守作業の効率化や運転員の保守能力向上などを実現するガスタービン向け高温部品管理プラットフォームを受注しました。本プラットフォームは、東亜石油がこれまで培ってきたガスタービンの運用・保守(O&M)に関するノウハウをベースに、日立がエネルギー事業で培ってきた経験や技術と、Lumada IoT プラットフォームのソリューションを用いて、点検・保守作業の効率向上、O&M ノウハウの蓄積による運転員の保守能力向上を図るもので、2020年1月の運用開始を予定しています。

ガスタービンの高温部品は、発電を行う設備の最重要ランクに位置付けられる構成品であり、約1,500°Cにも達する温度にさらされることから、数千個に及ぶ部品それぞれに使用時間が規定されています。そのため、ガスタービンの運用・保守では、高温部品の使用時間や点検記録を適切に管理し、ルールに則った交換やローテーションを確実に実施することが要求されます。

今回日立は、これまで培ってきたガスタービンの設計、製造、保守・サービスのノウハウを活用して、ガスタービンの高温部品に関する各種データや画像をクラウド上のデータベースで一元管理するプラットフォームを構築し、東亜石油水江発電所 2号に提供します。これにより、東亜石油と部品供給を担う日立双方が設備情報の閲覧・更新が可能となるため、ガスタービンの運用・保守に求められる、高温部品の使用時間や点検記録の適切な管理と、ルールに則った交換やローテーションを確実に実施することが可能となります。

今後日立は、発電所の安定稼動に貢献する「設備の予兆診断サービス」や、発電設備性能の維持・向上を支援する「性能評価サービス」、人工知能(AI)を活用した「売電支援サービス」などのソリューションを提案し、更なるO&Mを支援、経営の効率化に貢献していきます。また、お客さまとの協創による社会イノベーション事業を通じて、持続的な社会の実現とSDGsの達成に貢献していきます。

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
